

1 再編の概要

I. 現況

バスの利用者数は、産交バスグループ過去5年間で▲3.4百万人と減少しており、大きな要因の一つとして熊本地震が上げられるが地震発生1年後において利用者数が元通りに回復することはなく、厳しい状況が続いている。また、バス業界全体の深刻な課題である乗務員不足についても、積極的に乗務員募集を行っているものの、定員に達するまでの抜本的改善には至っておらず、非常に厳しい運営が続いており、バス路線の維持が困難な状況である。

II. 再編の目的

喫緊の課題である乗務員不足を改善し、労働環境改善及び、持続可能な運行形態を構築する。

III. 再編系統

- ① 熊本交通センター～西高入口～沖新～乙畠口 15.2 km
- ② 熊本交通センター～西高校前～沖新～乙畠口 16.1 km
- ③ 水道町～アクト～くまもと～甲畠口～海路口 16.6 km
- ④ 水道町～白藤町～川尻駅前(旧道)～川口二丁 21.6 km
- ⑤ 小島産交～並建～薄場町～交通センター 13.3 km
- ⑥ 水道町～白藤町～会富～小島産交 16.9 km

(* バス路線廃止区間 計 20.3 km)

IV. 再編内容

実施日 … 2019.10.1

■再編路線①～④については、市内中心部から離れるにつれ利用状況は非常に少なく、また、利用が多い区間については、他のバス路線と重複しており非効率な運行状況となっているため、廃止とする。

■再編路線④⑤⑥については、**利用が少ない区間を廃止し、短縮路線を新設する。**
短縮路線は、「水道町～白藤～JA飽田支所」とする。

【 スケジュール 】

2019年									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	まちづくりセンター説明								
		地域説明							
		県申入・局申請							再編実施

V. 再編効果

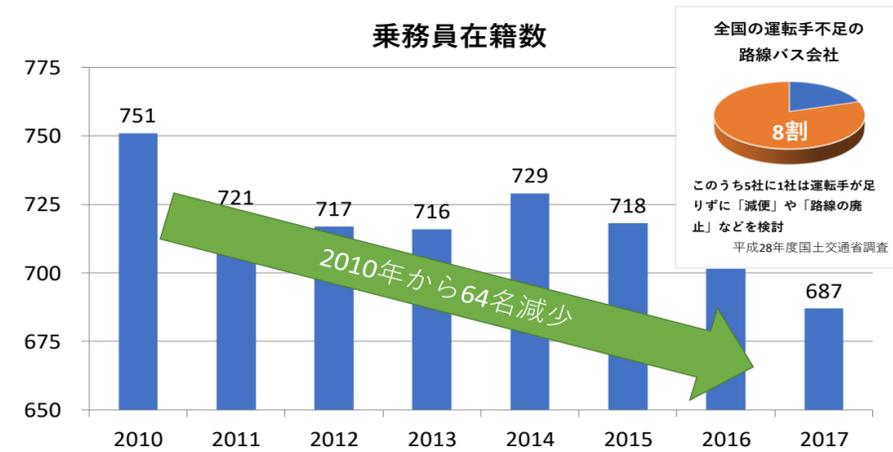
人員不足を解消することにより、休日出勤等への改善効果から、日々の安全運行を確保する。
※再編することにより、▲5人を削減予定。

2 乗務員不足の状況

□ 産交グループの乗務員数推移

乗務員不足は業界全体においても深刻な課題となっている。当社でも、乗務員数が震災後、乗務員不足が加速しており、不採算路線の減便・高速バス続行便を見送る等の対応を行なっているが、H31年1月の時点で39人不足という厳しい状況である。

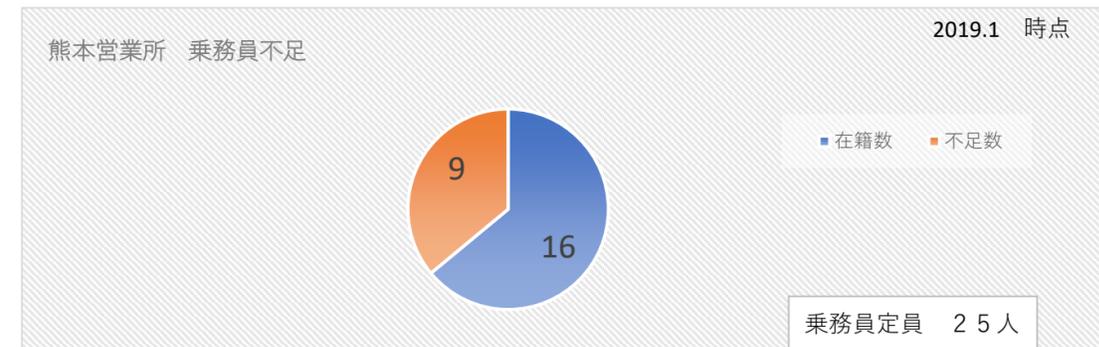
H29年10月から希望勤務地配属制度を導入し採用を強化しているが、定員に達するまでの抜本的改善には至っておらず、非常に厳しい運営が続いている。



□ 乗務員過不足状況

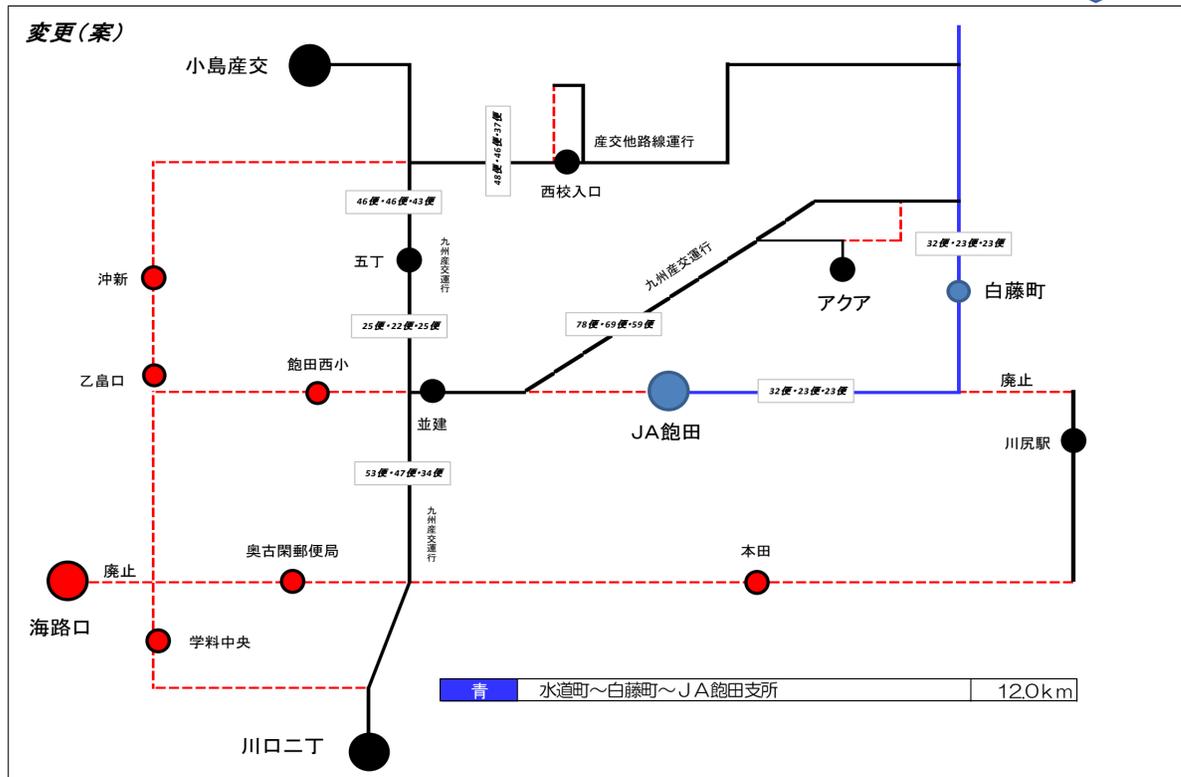
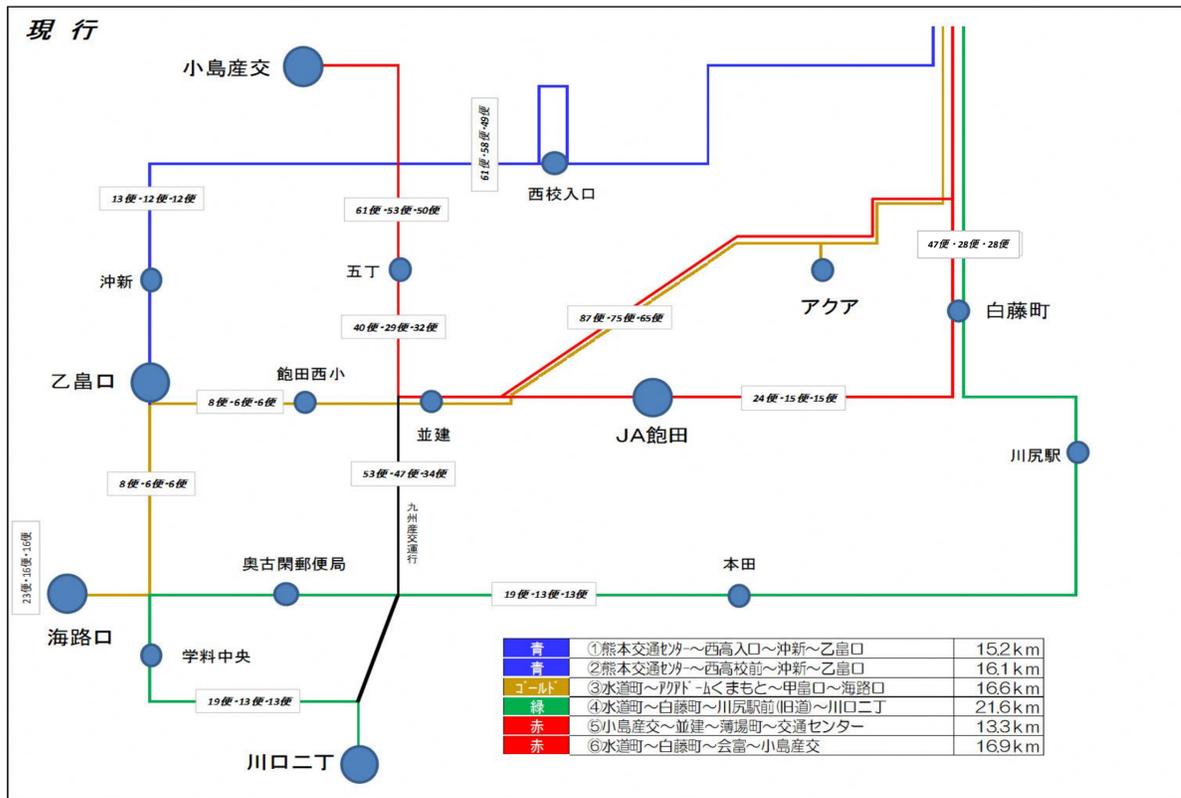
	定員数	在籍数 (乗務可能数)	過不足数
九州産交バス	351	332	▲19
産交バス	360	340	▲20
産交グループ全体	711	672	▲39

□ 熊本営業所の乗務員の状況



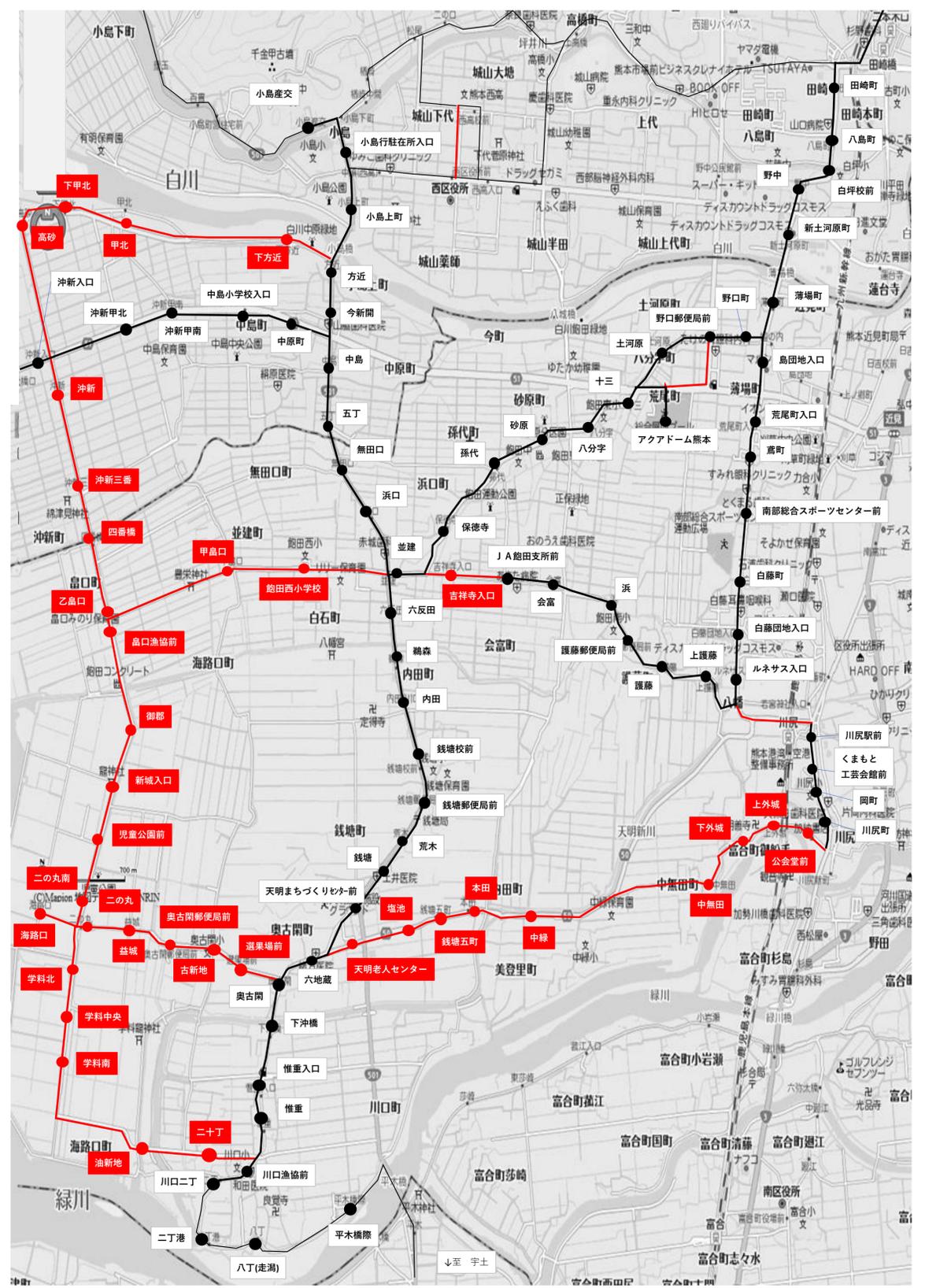
熊本市西南エリアのバス路線を運行する熊本営業所の状況としては、乗務員定員25人に対し、在籍乗務員は16人で、現在9人不足している状況であるため、休日出勤等により、何とか運営できている状況である。

3 新旧 簡易路線図



運行便数については、2018年10月1日時点となります。

4 廃止路線及び廃止停留所位置図



※上記廃止路線・廃止停留所は、他社合せてバスがなくなる区間を記載しております。